

アントニ・ガウディ(アントニオ・ガウディ)

Antoni Plàcid Guillem Gaudí i Cornet

(Antonio Plácido Guillermo Gaudí y Cornet)

-1852年6月25日、レウスまたはリウドムス(バシュ・カム)で誕生

-1926年6月10日、バルセローナで死去

- スペイン、カタルーニャ出身の建築家
- 19世紀から20世紀にかけてムダルニスマ(モデルニスモ)期のバルセローナを中心に活躍
- サグラダ・ファミリアをはじめとするその作品は、ガウディ作品群としてユネスコ世界遺産に登録



〔代表的建築物〕

- パラウ・グエイ(グエル)
(1886-1889)



- カザ・バトリヨ(カサ・バトリヨ)
(1905-1906)



- カザ・ミラ(カサ・ミラ)
(1906-1910)



- サグラダ・ファミリア
(1883-1926)



その生涯

- 1852年： 6月25日、タラゴナ県レウス市(あるいはリウドムス町)に生まれる。
 - 父親フランセスク・ガウディ、銅板職人
 - 母親アントニア・クルネット
 - 5人兄弟の末子。
 - 幼少の頃からリューマチを患い、歩けない日もあった。
 - のちに第一助手になるフランセスク・バランゲーとは、幼少時代に知り合う。
- 1863年： ピアリスト修道院の学校に入り、リベーラとトダという親友を得る。
- 1866年： ジュゼップ・マリア・ボカベーリャが、「聖ヨゼフ帰依者協会」(l'Associació de Devots de San Josep)を設立する。
 - この協会はのちにサグラダ・ファミリア贖罪聖堂の施主となる。
- 1868年： バルセローナに移住。
 - ★1868年： 九月革命の成功。「革命の六年間」に。
- 1869年： 10月、新設された建築学校への進学を目的として、その予科学校に入学する。

- 1873年： 県立バルセローナ建築学校に入学
 - ★1873年： 第一共和制の成立
- 1874年： サグラダ・ファミリア(聖家族贖罪聖堂)の建設が提唱される。
- 1874年～1878年： 生計を支えるためにアルバイトに明け暮れる。建築家ビリャル・ロサーノ、工匠ジュゼップ・フンサレーなどの下で働き、シウタデーリャ公園の造営にも参加。
 - ★1875年 王政復古の実現
- 1878年： 建築学校を卒業し、建築家の資格を取得。レアル広場の街灯などの製作。
 - パリ万博に展示された革手袋店のショーケースにより、のちのパトロン、アウセビ・グエイ(エウセビオ・グエル)に認められる。
 - ※ジュアン・グエイは、アメリカとの交易や繊維産業で財を成したカタルーニャのブルジョワジー。その息子アウセビ(1846-1918)も、実業家として活躍、コミーリャス侯爵の娘と結婚して、さらにグエイ家の名声を高める。熱心なカトリックであり、保守的カタルーニャ主義者。
- 1880年： 建築家ジュアン・マルトレイの助手を務め始める
- 1881年： 聖ヨセフ帰依者協会がサグラダ・ファミリアの建設用地を購入
- 1882年： 3月19日、サグラダ・ファミリア起工式。初代主任建築家はビリャル・ロサーノ

- 1883年： 初期代表作となるカザ・ビセンスの着工（～85年）
ー11月3日、サグラダ・ファミリアの二代目主任建築家に就任（ジュアン・マルトレイの推薦による）。
- 1884年： グエイ別邸着工（～87年）
- 1885年： グエイ別邸「ドラゴンの鉄門扉」が
新聞で絶賛される。



- 1886年： パラウ・グエイ着工（～89年）

- 1887年： アストルガ司教館の建設を依頼され、グラウ司教との交流が始まる。
- 1888年： サグラダ・ファミリアの財政状況が悪化、建設中断の危機に見舞われる(～89年)。
- 1892年： タンジールに建設予定のカトリック伝道館の構想に着手(～93年。実現せず)。

★1893年： バルセローナのリセオ劇場でアナーキストによる爆弾テロ

- 1894年： 四旬節に過酷な断食を敢行。
 - 友人のジュゼップ・トラス・イ・バジャス神父(1846～1916)に諭され、断食を中止(以後、「神に仕える建築家」の姿勢を明確にした、とされる。)

「良き友アントニオ。人生は儚く、すぐに去ってしまうものだ。だからこそ、人間は自らの意志ではなく、神の意志によって生命を断たなければならない。とくにあなたの場合、そうしなければならない理由がある。この聖堂(サグラダ・ファミリア)は神の望みにより、信者たちを精神的に養う目的で着工されたものであり、あなたはこの聖堂を完成させるという、現世での使命を受けているからだ。」

※トラス・イ・バジャス、ビック司教(1899年～)。⇒『カタルーニャの伝統』(1892年)を著す。「カタルーニャはキリスト教的であり続ける。もしそうでなかったら、カタルーニャはカタルーニャでなくなってしまう。」

→~~バランティアルミライの自由主義的・世俗的性格のカタルーニャ主義に対して、宗教・家族・私有財産を擁護。~~

- 1900年： カザ・カルベットで、バルセローナ市の第1回年間建築賞を受賞。
グエイ公園着手(～14年)



■ 1903年： サグラダ・ファミリアの財政状況が再び悪化し、建設中断の危機に見舞われる(～06年)。

□ 詩人ジュアン・マラガイなどが新聞・雑誌で、サグラダ・ファミリア建設の意義を説く。

■ 1904年： カザ・バツリヨ着工(～06年)

■ 1906年： カザ・ミラ着工(～10年)

■ 1908年： コロニア・グエイ教会着工(～14年)

★1909年： 7月、「悲劇の一週間」

⇒バルセローナで教会・修道院が焼き討ちにあう。



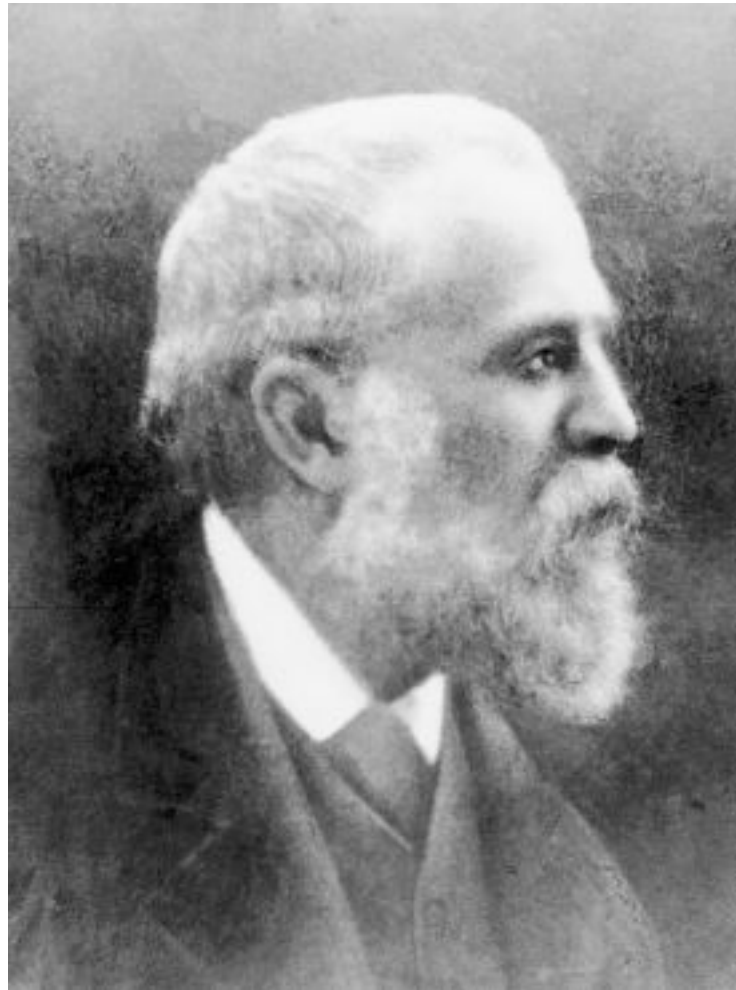
- 1914年： 助手のバランゲー(ベレンゲール)が死去。ガウディは、サグラダ・ファミリアの建設に専念することを宣言。
- 1922年： サグラダ・ファミリアの樹木式構造、「聖母昇天の祭室」などの最終案を完成させる。

スペイン建築家会議が、ガウディの功績を讃える宣言を採択。

★1923年： プリモ・デ・リベラ将軍の軍事独裁(～30年)。カタルーニャ地域主義を弾圧。

- 1924年： 9月11日、当局はバルセローナ市内の封鎖。ガウディは、サンツ・ジュスト・イ・パストル教会に向かい、警察にスペイン語(カスティーリャ語)で返答することを拒んで、数時間拘留される。
- 1925年： サグラダ・ファミリアに移り住む。
- 1926年： 6月7日、サン・フェリーペ・ネリ教会のミサに向かう途中、市電に撥ねられ、重体となる。

6月10日、死去(享年73歳11ヶ月半)。サグラダ・ファミリアの地下礼拝堂に埋葬される。





サグラダ・ファミリアの構造

- 18本の塔とその後陣の建物、そして主祭壇などがおかれる聖堂本体により構成。
- 中央に、イエス・キリストを象徴する「イエスの塔」(未完成。完成時には170～175m)
- その後ろに、イエスを見守る位置に「聖母マリアの塔」(完成時、125～140m)
- イエスの塔の周りに、4人の福音書家マタイ、ヨハネ、ルカ、マルコの塔(完成時、150m)
- 上記6人の塔を、12人の使徒を表わすマティアス、タダイ、シモン、ベルナベ(生誕の門)、小サンティアゴ、バルトロメウ、トーマス、フェリーペ(受難の門)、アンドレ、ペドロ、パブロ、大サンティアゴ(栄光の門)の12本の塔が4本ずつ、3つのファサードを構成する(これらの塔はすべて100m前後)。
- 生誕の門——イエスの降誕から青年期までの物語
- 受難の門——イエエルサレム入城からイエスが磔刑にされるまでの物語
- 栄光の門——最後の審判と天地創造などの物語
- 光の殿堂——イエスの塔の十字架から、天と四方に向けてサーチライトが放たれる。12使徒の塔の頂上からも光が放たれる。ステンドグラス。
- 音の聖堂——84本の鐘。パイプオルガン。聖堂本体が石の共鳴箱となる。